

次期学習指導要領 1枚まとめ｜中学校

情報・技術科（仮称） 中学校

小は総合に「情報の領域」、中は新教科、高は情報科を充実

10秒でいうと 技術分野を新教科「情報・技術科（仮称）」に。1・2年は最大70、3年は最大35コマ程度

中学校では、技術・家庭科の技術分野を、新しい教科「情報・技術科」（仮称）とする案です。「情報技術」と「情報を基盤とした生産技術」の2つの領域で構成する方向です。必要な時数は、1・2年が各学年最大70コマ程度、3年が最大35コマ程度の見込みです。中学校では令和11年度から段階的に先行実施する方向です。

1 2つの領域と7つの内容項目

情報技術の領域は「情報の表現とデジタル化」「プログラミングと自動化」「情報基盤とシステム化」の3項目の案です。生産技術の領域は4項目の案です。「材料加工とデジタル製作」「生物育成とデータ活用」「エネルギー変換とスマート化」「技術の統合」です（いずれも仮称）。

P241 P252

授業では 作物の栽培で土の水分をセンサーで測り、そのデータを見て水やりの時期を判断する、といった授業が考えられます。

2 新しく「技術の統合」を学ぶ

新しく「技術の統合」（仮称）を設け、複数の技術を組み合わせて課題を解決する学習を行う方向です。自動運転や介護ロボットのように、技術が組み合わさって働く仕組みを理解するねらいです。まとまった時間を確保できるよう、柔軟な指導計画を可能にすることが考えられています。

P252 P254

授業では 以前作った木製の作品にセンサーと照明を付け、防災に役立つ機能を持たせる、といった題材が考えられます。

3 仕組みを知り、使って解決し、ふり返る

今の技術科では、多くの生徒が体験だけで終わり、深い理解に至っていないことが課題とされました。そこで、技術の原理や仕組みを知る、問題解決を実践する、技術を俯瞰・評価する、という流れを重視する方向です。学習の順序は、引き続き教師の裁量に委ねる考え方です。P241 P254 P259

授業では 通信の仕組みを学んだあと、情報を伝えるアプリを作り、最後に便利さとリスクを話し合う、といった単元が考えられます。

4 過程を見る評価と、先生への支援

評価では、課題解決の過程や取組の様子を重視する方向です。端末で問題解決の過程を記録・共有したり、ルーブリック（到達の目安の表）を使ったりすることが示されています。国は研修や、オンラインの免許法認定講習の充実、遠隔授業などの実証を進めるとしています。P261 P262

授業では 製作の途中経過を毎時間、写真とメモで端末に残し、ルーブリックを見ながら自分で改善点を書く、といった進め方が考えられます。

ほかにも変わること（中学校）

- 中学校の技術・家庭科が分かれ、新教科「情報・技術科」とする案 P74 P241
- 新教科・領域の時数は、他の教科から「広く薄く」減らして生み出す方向 P78 P79
- 情報・技術科は2領域・7つの内容項目で組み立て直す案 P241 P252 P254
- タイピングや端末操作など、各教科で教えていた内容を新教科・領域へ移す方向 P243 P257
- 全面実施の前から段階的に先行実施する方向 P79 P262
- 教員不足への対策：研修・免許講習・遠隔授業など P239 P261 P262
- 国が授業でそのまま使える動画・教材を作り、年1回以上更新する P240 P251 P254 P262
- メディアリテラシー・AI・プログラミング的思考を小中高でつなげて育てる P248 P249 P262

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。